「スポーツ振興×地域活性化」拠点としての次世代公園の提案

2014年9月11日

株式会社セレスポ　サステナブルイベント研究所

所長　越川 延明

© 2014 CERESPO CO., LTD.

自己紹介

所属

■株式会社セレスポ　サステナブルイベント研究所　所長

■一般社団法人 日本イベント産業振興協会　主任研究員

主な経歴

2001年　株式会社セレスポ入社

・**イベントの営業・企画・会場管理**を担当

2010年　一般社団法人日本イベント産業振興協会 出向（～2012年3月）

・ISO/PC250/WG1 Memberとして**ISO20121**の作成に携わる

2011年　世界トライアスロンシリーズ横浜大会（～2013）

・ISO20121に準ずるイベントマネジメントのサポート

2013年　**サステナブルイベント研究所** 設立

© 2014 CERESPO CO., LTD.

セレスポの紹介

商　　号	株式会社セレスポ（CERESPO CO., LTD.）
設立年月日	1977年7月21日
資 本 金	13億7,067万円
年　　商	98億0,469万円※1
従業員数	370名※2
事業内容	イベント企画・制作

Ceremony + Sports

※1　2014年3月期

※2　2014年4月1日時点

© 2014 CERESPO CO., LTD.

次世代型コミュニティの場としての公園利用

© 2014 CERESPO CO., LTD.

施設運営の課題

多くの施設が継続するためだけの運営になっている

1）利便性の欠如

用途・時間の制限、計画的利用の難しさ

2）低い稼働率・不安定な利用

平日と休日、繁忙期と閑散期

3）収入減

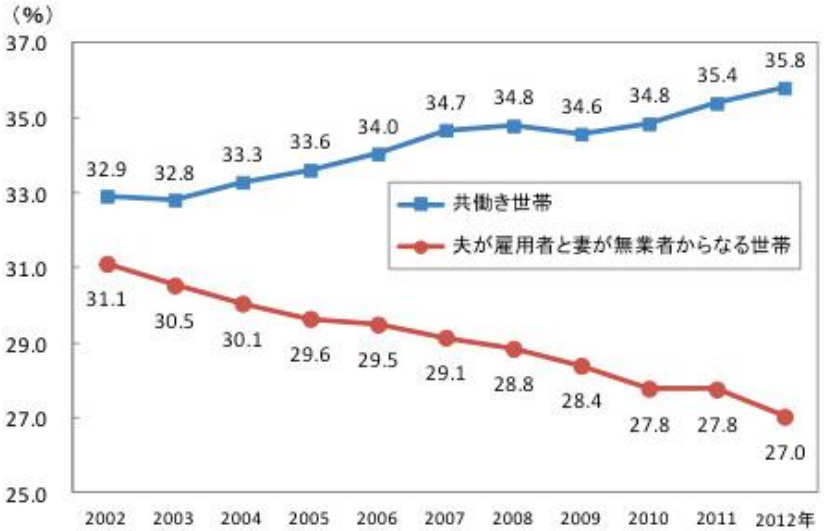
利用者数の減少、補助金の減額

© 2014 CERESPO CO., LTD.

地域の影響力が低下

1）共働き家庭の増加

夫が雇用者世帯である妻の就業状態別世帯数



注）2011 年は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国結果

出典：労働力調査基本集計（総務省統計局）

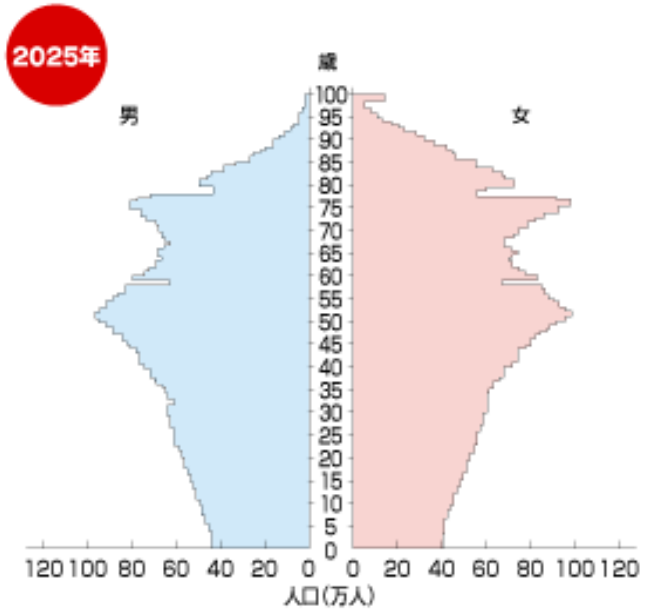
© 2014 CERESPO CO., LTD.

地域の影響力が低下

1）共働き家庭の増加

2）少子化

2025年の日本の人口ピラミッド



出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ

© 2014 CERESPO CO., LTD.

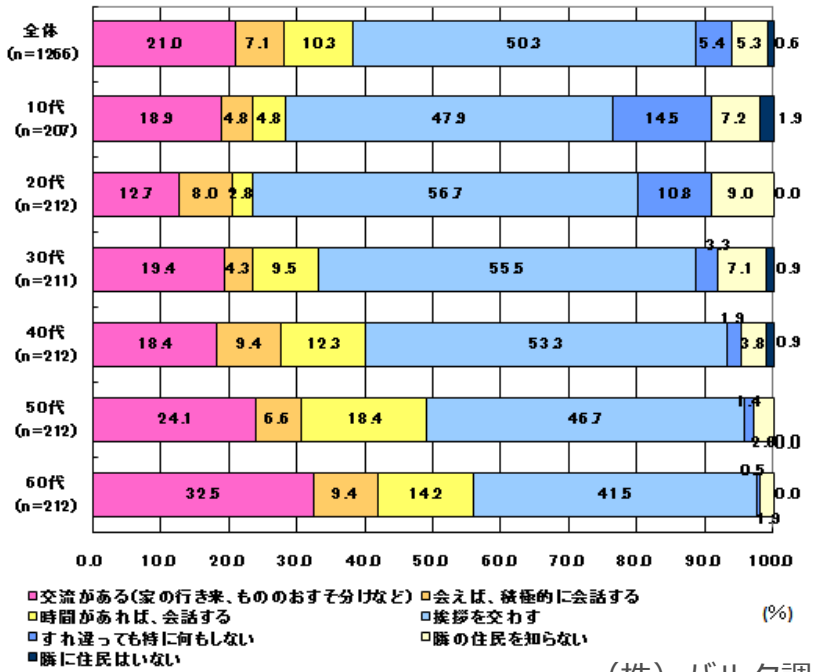
地域の影響力が低下

1）共働き家庭の増加

2）少子化

3）おとなり文化の衰退

近所づきあいの状況　年代別グラフ



（株）バルク調べ

© 2014 CERESPO CO., LTD.

地域に増えている現象

子供の行動の選択肢が減っている

学童保育 過去最多

2万1482カ所、待機児も増加

厚生労働省は4日、静岡県の待機児童は同10人増の154人、静岡市は同71人増の112人。浜松市は同59人増の95人だった。

厚労省は、市町村などが施設整備を進めたものの、現在の小学1年生が生まれた2006年は05年よりも約3万人出生数が多かったため、待機児童が増えたとみている。施設が増えると新たなニーズを生み出す状況のため、今年5月1日時点で2万1482カ所になったと発表した。前年と比べ397カ所増えて過去最高だったが、申し込んでも利用できない「待機児童」も1168人増えて、8689人に上った。

学童保育（学童クラブ）

共働き家庭やひとり親家庭の小学生を、放課後に校内や児童館などで預かる「放課後児童クラブ」（学童保育）

消えるのは難しそうだ。

利用した児童は、過去最高の88万9205人に達し、前年より3万7256人増えた。小学校1～3年生が利用者全体の87・6%を占めた。

保護者の要望に応えて、終了時刻の延長も進んでおり、平日午後6時を超えて児童を預かるクラブが初めて全体の60%を超えた。待機児童が、都道府県別で最も多かったのは東京都の1753人だった。

消える部活、学校側都合で毎年200も休廃部…都内公立中

2008年12月10日　14時42分配信　読売新聞

東京都内の公立中学校約640校で行われている部活動のうち、運動部を中心に毎年200部以上が、顧問の教諭の異動など学校側の事情が理由で休部や廃部していることが、都教育委員会の初めての調査でわかった。

生徒の意思にかかわらず、部活動が休廃部に追い込まれていることになる。都教委は「非常に深刻な事態」と憂慮しており、校外指導員の活用など対策の検討に乗り出した。

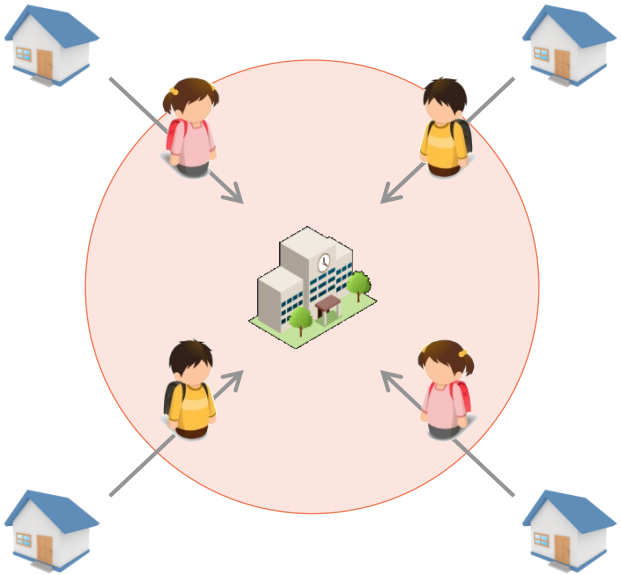
都教委は、部活動の状況を把握するため、2006年度から全公立中を対象（中高一貫校などを除く）に調査を開始。その結果、06年度220部、07年度222部、08年度は220部が、「学校側の事情」で休廃部していることが判明した。この間、復活する部もあり、部活の総数は8376～8463で推移している。生徒が途中で転部を余儀なくされたり、部活動そのものをやめたりするケースがあるという。

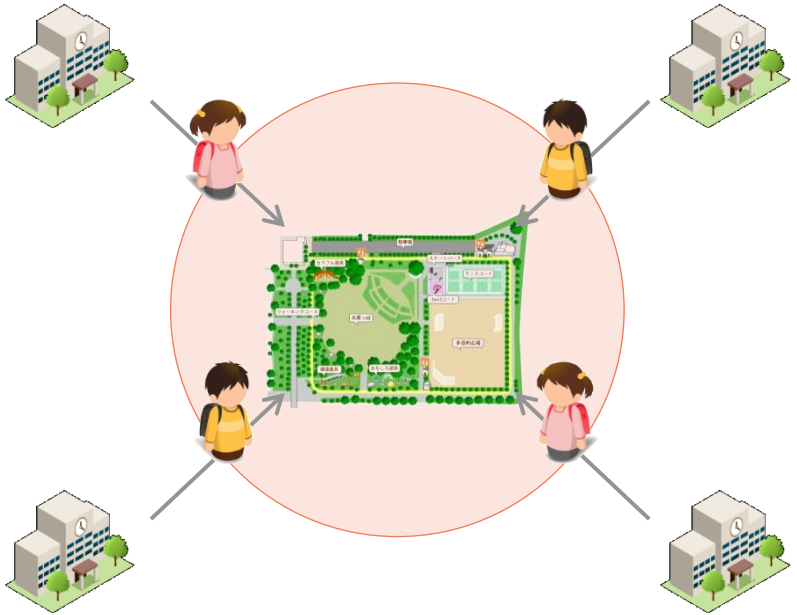
遊び場の減少

© 2014 CERESPO CO., LTD.

提案｜放課後コミュニティの形成

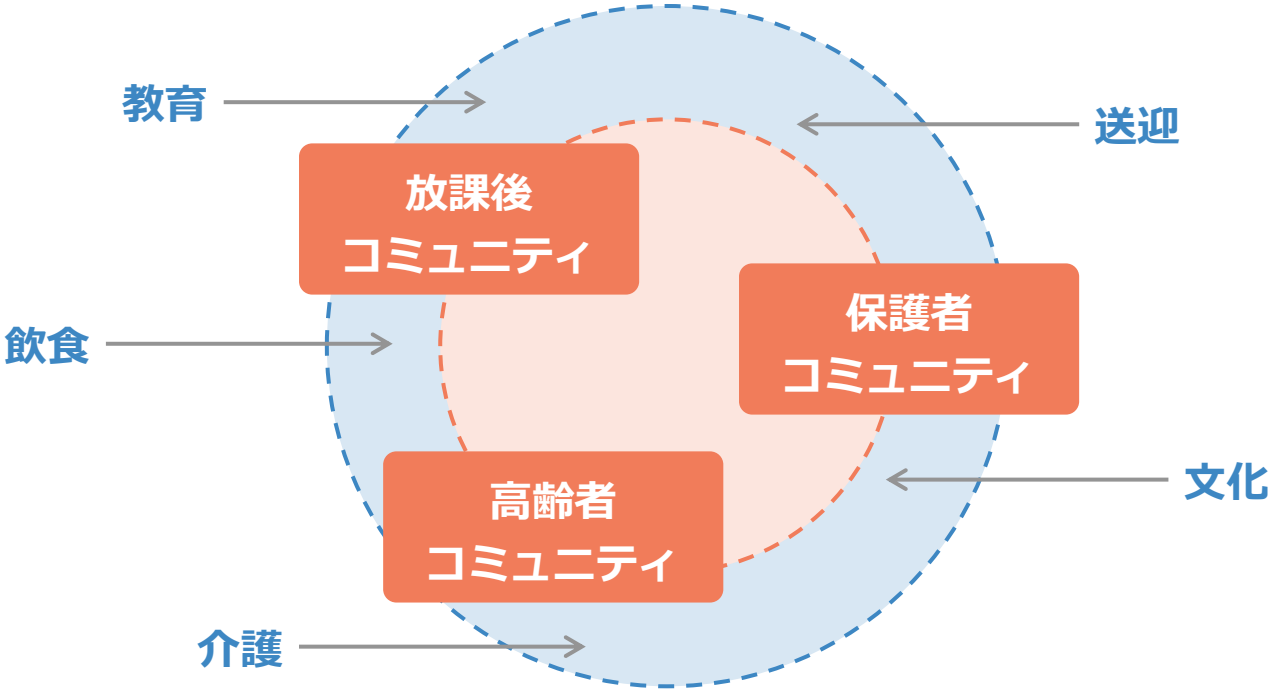
学校に帰属するコミュニティ ⟶ 行動に帰属するコミュニティ





© 2014 CERESPO CO., LTD.

コミュニティ形成により地域価値の向上が始まる



© 2014 CERESPO CO., LTD.

参考　スポーツライフサイクルの拠点づくり

競技団体を母体とする総合型スポーツクラブ

© 2014 CERESPO CO., LTD.

事業背景

スポーツ振興　×　地域活性化

マイナースポーツ共通の課題

- **「認知度向上」「集客数の増加」「競技人口の増加」「競技力の向上」**
- **人的、組織的、金銭的制限**
- 競技者の**セカンドキャリア**のあり方
- 興味があっても**体験する機会が無い**

スポーツ施設の課題・背景

- 平日の稼働率
- 日本全国で建設後30年を経過し、これから改修が必要な施設が数多くある

課題解決の仮説・考え方

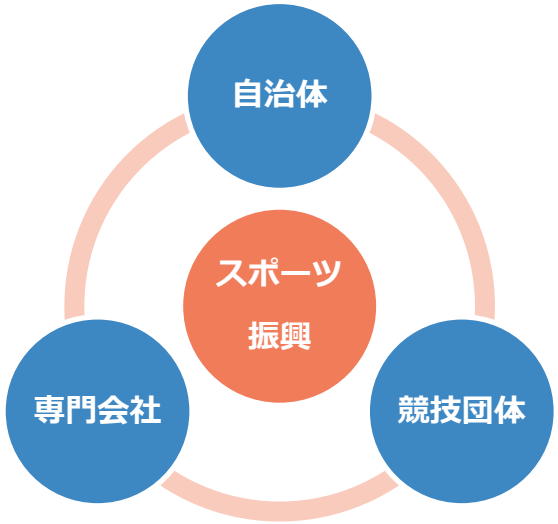
- **多様な企業と連携し、経営資源を共有して推進できる組織を作ることができる**
- **自治体と競技団体の連携によって、スポーツを活用した地域づくりが実現できる。**

競技団体が母体となる総合型地域スポーツクラブを設立、指定管理者としての活動をおこなう。

© 2014 CERESPO CO., LTD.

活動モデル

実施スキーム



	役割	効果
自治体	• 指定管理者制度の導入と予算化	• スポーツによる地域活性化 • スポーツ施設の稼働率アップ • 安定した利用促進を背景にした老朽化施設の改修
競技団体	• 総合型地域スポーツクラブの設立 • スポーツ人材・プログラムの提供	• 認知度の向上、競技人口の増加 • 競技に適したタレントの発掘 • セカンドキャリア支援
専門会社	• 総合型地域スポーツクラブの運営 • 既存ビジネスの導入・応用	• ビジネス機会の拡大

懸念事項　**「スポーツ助成金の活用」「地域住民との連携」「現在の指定管理者との連携」「他民間企業との連携」**

© 2014 CERESPO CO., LTD.

プログラム例

アスリートと専門家が協力し、対象と目的に沿ったプログラムを展開

継続プログラム

●未就学児童向けプログラム
- ・小学校入試に向けて体の動かし方などを教える教育型プログラム

●小学生向けプログラム
- ・「ボールであそぼう」を中心とした体験型プログラム
- ・ゴールデンエイジに適した競技を勧める発掘型プログラム
- ・学童保育の一環としての地域貢献型プログラム

●中学生・高校生向けプログラム
- ・競技者を目指すためのステップアップ型プログラム

●一般成人向けプログラム
- ・「ボールであそぼう」の指導者を養成する養成型プログラム
- ・生涯スポーツのためのコミュニケーション型プログラム

●シニア向けプログラム
- ・生涯スポーツのためのコミュニケーション型プログラム

単発プログラム

●トップリーグボールゲームの開催（随時）

●ボールゲームフェスタ（1年に2回程度開催）

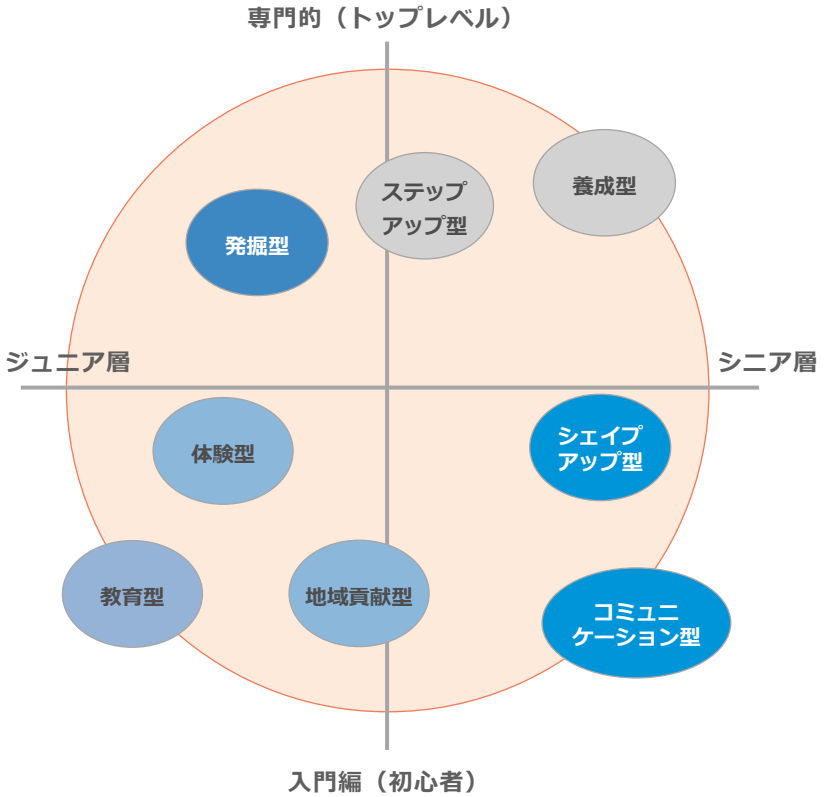
スケジュール

	月～金	土日	
午前	●未就学児童対象 ●シニア対象	●全対象	単発プログラム
午後	●未就学児童対象 ●小学生対象 ●一般成人対象 ●シニア対象	●全対象	
夜	●中学生高校生対象 ●一般成人対象	●全対象	

© 2014 CERESPO CO., LTD.

展開例

プロスポーツを運動会競技に。「Professional UNDO-KAI」の実施



＜全対象者向け＞

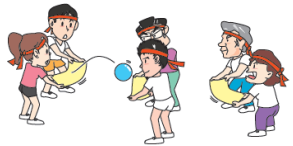
トップアスリートと競走する
リレー競技などの地域交流プログラム

＜ジュニア・親子向け＞

親子参加の競技や基礎運動を絡めた
競技などの体験プログラム

＜シニア層向け＞

高齢者の方でも参加しやすいコミュニ
ケーション型プログラム



＜トップレベル向け＞

競技の特徴を活かしテクニックを
必要とするプログラム

© 2014 CERESPO CO., LTD.